



※ふるさとの会のメールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。
今後もふるさとの会の活動内容を定期的に情報発信させていただきたいと存じます。

INDEX

1. 「8,1支援付き住宅推進会議」のご報告
2. 雨にも負けず、山谷夏祭りを開催
3. 公扶研全国セミナー特別講座
4. 市川ガンバの会より見学

1.「8,1支援付き住宅推進会議」のご報告

去る8月1日、すみだ生涯学習センター「ユートリア」において「支援付き住宅推進会議」(以下「推進会議」)を開催しました。

今年3月19日に起きた「静養ホームたまゆら」の火災事件は、高齢困窮者の地域居住の場が決定的に不足している問題を明らかにしましたが、ふるさとの会はこのような悲劇を繰り返さないために、これまでの事業実践を踏まえ、「支援付き住宅」の制度化が必要だと主張してきました。今回の推進会議には、ふるさとの会および「支援付き住宅研究会」の呼びかけに応えてくださった住宅、医療、福祉などの専門家やNPO等民間事業者から19名(ほか賛同者3名)が集まり、「支援付き住宅の利用者像とケアの分析」、「高齢困窮者に必要な居住創出と社会サービス連携」、「支援付き住宅の制度化と普及による地域の活性化」などをテーマに活発な論議を繰り広げました。

大都市高齢化の問題はますます深刻になっており、単身認知症世帯も増えています。いま求められているのは、地域で生きづらさを抱える人に対して、心身のケアのみならず居住の場を含めた〈切れ目のない〉支援をコーディネートしていくことだということは、出席された方々共通の認識だったのではないでしょうか。ふるさとの会からは今後このコーディネート機能を持つ「サポートセンター」を設置してゆきたいと提案しました。また会場には行政、マスメディアなどから約80人の方が参加され、自治体の役割、ネットワーク業務の財政支援、東京以外の地域の状況などさまざまなお話を出していただきました。

多様な〈在宅〉生活を実現するために、「支援付き住宅」を推進していく取り組みはこれからもつづいていきます。推進会議の終盤は「支援付き住宅推進会議設立準備会」と位置づけ、10月12日に「発起人集会」を行うことになりました。10月12日は「発起人集会」に続けてシンポジウム『～たまゆらの悲劇を繰り返さない～「都内・各地域に支援付き住宅を」』を行うことになっています。ふるさとの会は多くの方々と議論しながら、実践的に問題を解決するための居住セーフティネットを張ってゆきたいと考えています。ふるさとの会へご参加ください。

(望月拓馬・瀧脇憲)

* テープ起こしをした報告書もございます。お問い合わせはふるさとの会事務局(TEL03-3876-8150)まで。



19名の専門家が一堂に会し、それぞれの立場から問題提起を行う

2.雨にも負けず、山谷夏祭りを開催

去る8月8日(土)・9日(日)の2日間、ボランティアサークルふるさとの会主催のもと玉姫公園にて第33回山谷夏祭りが開催されました。

昨今、ホームレス・路上生活者及び簡易宿泊所住まいの日雇い労働者の高齢化とともに、最近の不況に伴いリストラ・派遣切り等による若年稼動層の増加も問題になってきております。実際、2日間炊き出しに参加して30代・40代の若い方が大勢来られたのには驚きと同時に、今後どのような支援をすれば良いのか考えさせられました。

今年の山谷夏祭りは沢山のボランティア及び職員・スタッフの協力により開催されました。スタッフの中には、ふるさとの会の施設に入所しながら各施設の清掃及び賄いの仕事に従事している方々や派遣切り等で当法人の就労支援ホームで仕事を探しながら入所している方々が参加していました。彼らは普段多くの人達と接することが少ないので、色々な人々と接することで情報交換をし、時には苦情の対応などもして、地域の人達にどんどんコミットすることが出来て、とてもいい経験になったと思います。実際、参加者の中に入と話すのが苦手だというスタッフがいましたが、山谷夏祭りの後、接客業の仕事も視野に入れ職探しをしてみようかな?と言ってきたので驚きました。またボランティアの女性で、将来はふるさとの会で働きたいので参加してみました!と職員が聞いて嬉しくなるような参加者もいて、皆心を一つにして山谷夏祭りを成功させようと頑張りました。

祭り1日目は、曇り空で、スタッフ一同、何時雨が降るか気にしながらの準備になりました。幸いにも祭りが始まる直前の16時頃に短時間の夕立が降っただけでした。舞台の音響機器など一旦撤収をしましたが、イベントの進行には差し障りはなく時間通り開催されました。毎年恒例の高野山東京別院の僧侶の方々をお招きして無縁供養・川施餓鬼を実施し、その後カレーの炊き出しと屋台での焼きそば・モツ煮・ビール等の販売が行われ、同時に東京善意銀行友の会等の演芸・演奏が催されました。カレーの炊き出しは、1日目は残念なことに開催前の雨などの関係で出足が悪く500食ほどでしたが、2日目は700食以上出てカレーが無くなってしまうほどの盛況でした。

2日目も日中は晴れましたが、夕方から天気が悪くなり17時前頃から雨が降ったり止んだりの繰り返しで、演芸・演奏を中止にするか開催するかの判断を迫られましたが、ボランティア、職員やスタッフの懸命な舞台の整備で開催することが出来、来て下さった沢山の方々に楽しんで貰う事が出来ました。祭りに携わったボランティア・スタッフの方々の奮闘の結果、無事に2日間の祭りを終えることが出来てホッとしています。来年もワクワクするようなお祭りにしたいと思いますので、是非来て下さい。

(滝澤 健一郎)



夏祭りの風物詩、ぼやぼやバンドの演奏



高野山別院による無縁供養

3.公扶研全国セミナー特別講座

8/8、9/12に、現役のケースワーカーや施設職員など全国で生活保護行政に携わる方が、セミナーの一環として、ふるさとの会の施設見学に来所されました。8/8(14名参加)には「現在の山谷から地域生活支援を探る」と題した東京生活保護福祉研究会(旧都現協)からの見学があり、さらに9/12(30名参加)には全国公的扶助研究会の全国セミナーにおける特別講座として、四国から都内まで全国から見学に来られました。両日共に事務局長の古木からふるさとの会の事業概要の説明があり、その後ふるさとの会施設の見学を行いました。職業柄、ふるさとの会が地域の中で包括的に行っている多様な支援に関心をもたれる方が多く、質問が相次ぎ、活発な意見交換が行われました。現在ふるさとの会が墨田区から委託されている「元ホームレス被保護者自立支援生活支援プログラム」※を自分の区でも行いたいと計画されている福祉事務所の方がいたり、また、更生保護や支援付き住宅の制度化に向けた取り組みに興味を持っている方もいて、CWが抱える問題と、ふるさとの会の行う事業の普遍性を確認することができました。

※ 墨田区からの委託をうけて元ホームレス被保護者の地域生活を支援しています。アパートや二種宿泊所、簡易旅館で生活を送る被保護者を対象として、自立にむけた生活をサポートします。(21年度は100名が支援の対象。)
(館野毅)



三富製作所のゆったりとした雰囲気のなか事業説明



4.市川ガンバの会より見学

9月9日(水)、ホームレス支援全国ネットワークに加入し、千葉県市川で支援を行っている認定NPO法人市川ガンバの会の代表理事の副田さん(全国ネットでは理事を務める)、そして日々支援に携わっている職員の方6名が、ふるさとの会および山谷地区の見学に来訪されました。

最初に本部にて就労支援事業部責任者の小林から、利用者の多様なニーズに応じた地域での包括的な支援を行う当会の事業について説明がありました。昼食後、職員の引率で当会が運営している台東リビング・センターすみだ・財団法人城北福祉・労働センターから管理・運営を委託されている分館敬老室・各宿泊施設をご案内しました。見学後、参加者の方からは次のような貴重な感想をいただきました。

「今回、山谷地区を初めて訪れましたが、実態を目の当たりにしてショックを受けました。ふるさとの会の各施設が24時間体制であることをお聞きし、体制整備にはご苦労があることだろうと思いました」「それぞれの事業の連携がうまく回っていて感心しました。支援がステップアップしつつ就労へと結びついていく方法のヒントをいただけました」。

その後の懇親会においても、支援に情熱を持って取り組むガンバの会の皆さんに刺激を受け、たいへん有意義な交流を行うことができたと思います。

(坂本 陽子)



宿泊施設などを見学される市川ガンバの会の皆さん

発行元:特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会

〒111-0031東京都台東区千束4-39-6

TEL:03-3876-8150 FAX:03-3876-7950

E-mail:hurusato@d5.dion.ne.jp

HP:<http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>